

## 公募助成「腎不全病態研究助成」研究サマリー

研 究 名	腎移植患者における貧血加療の現状および移植腎間質線維化の評価と関連
所 属 機 関	ときわ会 余丁町クリニック
氏 名	海上 耕平
<p>腎移植患者において、移植後貧血(Post-Transplantation Anemia; PTA)は、生命予後・移植腎予後などに影響を及ぼすことが知られており、PTAを改善し、ヘモグロビン値を保つことにより、移植腎機能や生命予後を良好に保つ可能性が示唆されている。一方、移植腎の間質線維化及び尿細管萎縮(Interstitial fibrosis and tubular atrophy: IF/TA)は移植腎長期予後に関連するとされており、PTAとの関連も強く疑われている。</p> <p>IF/TAの評価に関して、現在おもに移植腎生検が行われているが、その侵襲性や、定量性および再現性において欠点があると考えられる。今回、Transient elastographyを用い、移植腎IF/TAに関して移植腎線維化指数とした定量的評価を行い、さらに移植腎生検結果と併せることによりPTAや移植腎予後などの評価を行った。</p> <p>当初、2020年度の研究を想定していたが、測定および移植腎生検に関して、COVID-19流行下・当クリニックが移植専門クリニックであるため施行困難であり、研究を延期せざるを得ず、2023年4月から5月に測定を行った。対象は当クリニック通院中の腎移植患者(生体、献腎移植を問わない)であり、全490名についてフィブロスキャンエキスパート630による測定を行った。</p> <p>既報では肥満などの場合に施行困難であるとのことであったが、ほぼ全ての症例において測定可能であることが分かり、またせん断波発振の際にごく軽度の振動があるものの特に疼痛もなく、移植腎測定において非常に簡便かつ非侵襲的な検査であることが分かった。</p> <p>腎機能良好症例においてフィブロスキャン値は高く、不良症例では低く、さらに、移植後年数および長期経過とともにフィブロスキャン値は低い傾向を認めた。また、IF/TA進展症例においてフィブロスキャン値は低かった。これらは移植腎の増悪に従い、腎臓の弾性が減っている可能性が示唆された。</p>	